

丹波篠山景観まちづくり作法集

兵庫県篠山市

- 視点場設定に基づく眺望景観の指針(手引き)検討
- 景観農業振興モデル地区調査計画
- 市民活動を支援する町並み形成作法集(手引き)の作成
- 家づくりをサポートする住環境形成事例集(手引き)の作成

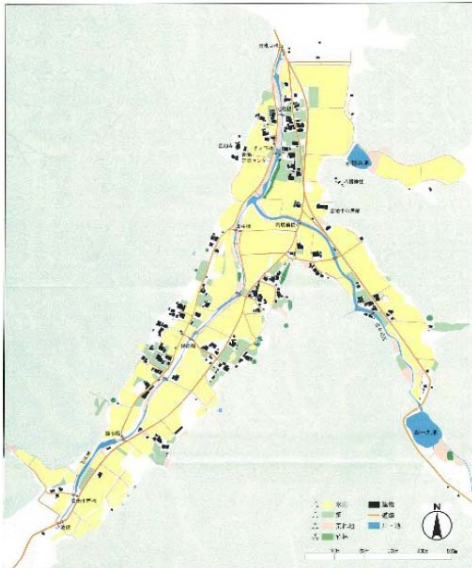
<p>概要</p>	<p>現在、市全域を対象とした景観計画の策定を進めている。景観計画では土地利用区分による景観基準の設定や県の景観形成地区等を継承する形で検討している。今年度「農都宣言」した本市は、市域の主体をなす田園景観の保全継承に向けて、篠山盆地特有の田園の眺望景観への配慮を、主要な視点場設定に基づく手引きとしてまとめると同時に、単一集落をモデルに本市の景観農業振興地区のあり方や可能性について検討した。また、市民主体の景観まちづくりを支援するため、市民の景観形成等に関連する活動やイベント等の集約から、より良好な景観形成に向けての方向性や家づくりにおける景観形成への配慮事項を手引きとしてまとめ、市民の啓発普及や市民協働による景観まちづくりに活用していく。</p>
<p>実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●田園景観の保全継承に向けて視点場設定に基づく眺望景観の手引き(冊子)を作成             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 主要な視点場候補を抽出し、写真撮影を通して田園景観への眺望性から視点場を設定。視点場からの見え方から景観的特徴と景観の構成要素を明らかにし、田園景観として大切にすべき景観要素、構成、成り立ちや仕組み等を市民に啓発する冊子を作成。</li> </ul> </li> <li>●景観農業振興モデル地区調査計画             <ul style="list-style-type: none"> <li>② 「農都宣言」した篠山の景観は、市民の日々の営みの上に形成されてきたとの認識の下に、モデル集落での詳細調査を通して生業を通じた農村景観の成り立ちと空間、構成要素を具体の景観素材として抽出し整理する中で、維持管理の仕方や方策をワークショップに基づき把握・検討した。農村集落での景観保全や創造を景観素材と住民の営みとの関係の中で、地域マネージメントしていく仕組み(体制と方法)を考察。</li> </ul> </li> <li>●市民活動を支援する町並み形成作法集(手引き)の作成             <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 今年度開催した丹波篠山築城400年祭等を契機に市民の地域活動や地域興しに基づく景観形成に係る取り組みやイベントが市内各地で見られるようになった。これに伴い市民のこうした活動を支援し、より景観形成に寄与する町や地域での取り組みへ発展させていくための視点や方向性について提言した。これから景観まちづくりをはじめようとする地域にも参考事例となる形で編集している。</li> </ul> </li> <li>●家づくりをサポートする住環境形成事例集(手引き)の作成             <ul style="list-style-type: none"> <li>④ 篠山には昔からの町並みが多く残り、田園景観も伝統行事と共に継承されている。篠山の調和した景観は、いずれも通りや、隣家、田畑、山や川、祭りや隣家等、住まいと周りとの「つながり」にあり、新しい住宅地や伝統的町並みにおいても、住まいとまちなみとのつながりを大切にしていける必要がある。篠山の伝統的な住まいと周りとの景観的つながりを「町並み作法集」としてまとめ、市民の家づくり等の啓発や手引きとして活用する。</li> </ul> </li> </ul>
<p>取組の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 今後開発協議に役立つ眺望景観の視点場設定と眺望景観の解析で明らかになった篠山の大切にすべき景観の構成や資源を市民に啓発する冊子を作成。</li> <li>② 景観農業振興の調査を通して農村景観の構成と素材との関係性を詳細に把握した。その関係性を保つことが景観保全につながり、今後も地域の営みとして維持管理する方策が大切。景観からの地域マネージメントといえる。</li> <li>③ 市民の景観まちづくりに関する取り組みをまとめ支援すると共に新たな取り組みの視点を提示できたこと。地域と共に情報発信する素地(ツール)が出来た。</li> <li>④ 景観形成を誘導する上で、問題となる新興住宅地について、市民の家づくりにおける気遣いと留意点を啓発する冊子が完成。</li> </ul>

<p>今後の課題</p>	<p>①篠山の田園の眺望景観は、緑の輻輳する景観に特徴がある。輻輳する景をいかに守り、創り出していか。          ②農村景観を保全継承するためには、開発から守るだけでなく、日々の生業や営みを通して維持管理する仕組みが大切であること。営みを通して維持管理してきた景観への数多くの工夫や資源をほとんど現代的に活用できていないこと          ③市民と協働するまちづくりが少し見えてきた。単純な役割分担ではなく、その時の時系的取り組みの中で各主体が責任を果たすことがポイント。          ④周りに配慮することが、豊かな生活空間創りにつながる。基準は、自由な建築行為の規制ではなく、豊かな生活空間を作るためのノウハウであること。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>人口減と少子高齢化の中で、今日まで継承してきた景観を日々の営みを通してマネージメントしていく仕組みが求められる。景観計画の基準化で、新たな開発行為については、ある程度歯止めが出来る。今後は、真の意味で市民と協働する景観まちづくりを推進すると共に、市民生活を通して景観をマネージメントしていく仕組みを検討していく必要がある。このため市民と協働する景観まちづくりを通して地域の活性化に寄与すると共に、農村景観を持続的に維持管理する仕組みを地区の景観農業振興調査等を通して構築していきたい。</p>
<p>市町村名</p>	<p>兵庫県 篠山市</p>
<p>部局／担当者名</p>	<p>まちづくり部景観室／横山宜致・樋口裕昭</p>
<p>連絡先</p>	<p>TEL : 079-552-1118</p>
<p>リンク</p>	<p><a href="http://www.city.sasayama.hyogo.jp">http://www.city.sasayama.hyogo.jp</a></p>

(写真又は図)



①作成した眺望景観の手引き(冊子の抜粋)



②景観農業振興モデル地区調査を実施した昔地中集落



### ひおき軒先ミュージアム

場所：日置  
主体団体：日置里づくり協議会

手作りののれんや花かごでまちなみを彩る「ひおき軒先ミュージアム」。古い着物などを利用した花柄やしま模様なのれんが、東西に約1キロ伸びる旧街道沿いの民家約100軒に掛けられます。さらに、軒先には草花で飾り付けた唐簀や荷草、水草などの懐かしい道具が陳列され、モミジヤクリなどが描かれた和紙のあんどんが秋を演出する「おもてなし」の空間が出来上がります。日が暮れると丹波焼きの陶器行灯に明かりが点灯され、幻想の景が現れます。



③市民主体の景観まちづくりの事例ーひおき軒先ミュージアム

## シンボルの緑との縁

神社、お寺、街道、田畑の立木…まちのシンボルとなるような樹木があれば、まちにまとまりが生まれ、まちが一つの緑で囲まれます。特に田園に囲まれた場所では、その効果は絶大です。

ex. シンボル公園を持つ住宅地  
スーパーア東淀川ガーデンタウン/大阪市  
公園を取り囲むように住まいが広がります。緑がまちのシンボルとなったミニ開発です。



④家づくりをサポートする住環境形成事例集から抜粋(緑との「縁」)